漁業取締船「はやちね」竣工

11月19日、釜石市の岩手県水産試験センターにて岩手県漁業取締船「はやちね(64トン)」の竣工式が行われ、県議会議長代理として出席しました。

最新の設備を備え、都道府県の漁業取締船としては国内最速のスピードを誇る「はやちね」は平成25年7月に建造に着手し、この度めでたく竣工の運びとなったところであります。

東日本大震災津波発災後も沿岸部の貴重な水産資源であるアワビ等を狙った組織的な密漁が横行し、漁業者に大きな影響を与えていることから、厳しい取り締まりが求められる中で「はやちね」が竣工されたことは非常に大きな意義があると思います。

今後、県では海上保安庁、岩手県警と連携しながら、既存の「岩鷲(65トン)」との2隻体制で密漁や違法操業の撲滅に努めてまいります。

海洋調査船「新青丸」着岸

平成26年9月13日、14日、大槌漁港に長さ約66メートル、総トン数約1,600トンの大きな船が着岸し、一般公開が行われました。その船の名は「新青丸」。

東日本大震災津波により、三陸の海は大きく攪乱され、漁業環境の悪化が懸念されるところであります。

このため、文部科学省では、我が国の海洋研究の粋を集めた大規模な調査研究プロジェクト「東北マリンサイエンス拠点形成事業」を実施しており、「新青丸」は、その調査研究を支える世界最新鋭の海洋調査船として、海洋研究開発機構(JAMSTEC、横須賀)が建造し、東京大学大気海洋研究所が立地する大槌町に船籍を置いたものです。

北東北太平洋域を中心に研究を行うこととしていることから、被災地の漁業の復興に大きく資するものであると思いますし、更なる調査研究プロジェクトの充実に向けて、引き続き取り組んでまいります。

PROFILE

岩崎友一のプロフィール

岩崎友一
(いわさき・ともかず 36才)

誕生日 昭和53年9月18日
身　長 165cm
体　重 60kg
血液型 B型

経　歴
平成元年　大槌町立安渡小学校　卒業
平成4年　大槌町立大槌中学校　卒業
平成7年　盛岡中央高等学校　卒業
平成13年　城西大学　経済学部　経営学科　卒業
平成14年　鈴木栄子司法書士事務所　勤務
平成18年　(株)ガルパート・ジャパン　勤務
平成22年　岩手県議会議員補欠選挙で初当選
平成23年　岩手県議会議員選挙で2期目当選
(現在に至る)

県議会の役職
総務委員会　委員長
スポーツ振興等調査特別委員会　委員
東日本大震災津波復興特別委員会　委員
議会改革推進会議　副座長

自己紹介
●趣　味……野球、ゴルフ、DVD、音楽鑑賞、温泉旅行
●座右の銘……「温故知新」
●好きな食べもの　納豆、麻婆豆腐(辛口)、秋刀魚の塩焼き
●長　所……何事にも前向きなところ
●短　所……たまに突っ走りすぎること

公式ホームページ
●岩崎友一公式ホームページ
http://iwasakitomokazu.com 更新 ブログ更新中
●岩手県議会ホームページ
http://www2.pref.iwate.jp/~hp0731/

編集後記

昨年末、12月20日に釜石市にて励ます会を開催していただきました。

当日は年末の忙しい時期にも関わらず多くの皆さんに出席をいただき、励ましの声をいただきましたことに感謝の気持ちでいっぱいでありました。

今年は春には大槌町にて県政報告会を開催し、発災からこれまでの私の活動についてご報告をさせていただきます。

また、5月には第二子が誕生予定であり、お盆明けには自身3度目の県議会議員選挙が予定されており、節目の1年となります。

政治家として、また父親としても一日一日を大切にして、充実した1年となるよう頑張って行きたいと思います。

(岩崎友一)

岩崎友一県議会だより
# 温故知新
2015年(平成27年)
1月5日
―発行―
Vol.9
岩崎友一公式HP　http://iwasakitomokazu.com　岩手県議会HP　http://www2.pref.iwate.jp/~hp0731/

平成26年11月28日　決算特別委員会

ご挨拶

明けましておめでとうございます。

昨年末の衆議院議員選挙においては選挙の結果以上に東日本大震災津波からの復興への関心が薄れていることが明らかになり、発災からこの間、故郷の復旧・復興に全力で取り組んできた私としては危機感を持つとともに、これまで以上にしっかりと頑張っていかなければならないという思いを強くした年末でありました。

発災から4度目の冬を迎えた今尚、岩手県内では約3万人、うち釜石市で約6,300人、大槌町では約3,800人が「いつ、どこで、だれと、どのような」生活が出来るのか、そういった不安を抱えながら、応急仮設住宅等で日々を暮らしております。

そういった不安を1日も早く安心に変えられるよう、「住まいの確保」を最優先に本年も故郷の復興に全力で取り組んでまいります。

さて、今回は初の委員長を務めました昨年の決算特別委員会の状況や9月からこの間の私の活動についてご報告をさせていただきます。是非、ご覧いただければと思います。

本年も宜しくお願い申し上げます。

平成27年1月1日
岩手県議会議員　岩崎友一

岩崎友一事務所
釜石事務所　〒026-0025 岩手県釜石市大渡二丁目6番23号TRYビル2階
TEL:0193-55-6830　FAX:0193-55-6831
大槌事務所　〒028-1131岩手県上閉伊郡大槌町大槌24番地23-1(大槌タクシー内)
TEL:0193-42-2257　FAX:0193-42-2258

復興を前へ! 政府・自民党本部へ要望

10月1日、碇川大槌町長と自民党本部、農林水産省、復興庁、内閣府、経済産業省、国土交通省、総務省、厚生労働省を訪問し、復興に関する要望を中心に15項目の要望をしてまいりました。

また、11月4日には自民党岩手県連・県議会自民党会派として政府、自民党本部へ復興に関する要望を中心に今般の米価下落対策等について要望・意見交換を行ってきたところであります。

要望では復興全般としては復興に必要な財源の確保と十分な予算措置・柔軟な運用、被災地の市町村への人的支援、また、住宅再建に係る被災者生活再建支援金の増額等々について要望し、産業面ではこの間要望してきたグループ補助金の店舗兼住宅への適用を決めていただいたことへの御礼等々も行ってまいりました。

特にも住宅再建については、被災地の建設単価が高騰し続けていることから被災者生活再建支援金を増額しなければ持家再建が困難な状況となっていること、また、補助金の期間内に再建できないことへの不安の声も多いことから、補助金の延長などについて強く要望をしてきたところでもあります。

要望はその内容の必要性・重要性をより具体的に、また粘り強く訴え続けていくことが重要でありますから、今後も積極的に国への要望を行っていきたいと思います。

11月4日　復興庁で竹下亘復興大臣、小泉進次郎復興大臣政務官に要望

釜石警察署平田駐在所　開所

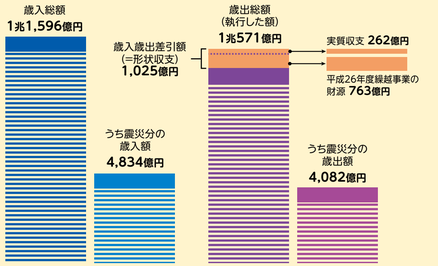
12月18日、県内復旧第1号として釜石警察署平田駐在所の開所式が行われました。

発災後、平田地区の巡回活動等はえきまえ交番を拠点に行われておりましたが、平田駐在所の開所に伴い、平田地区の地域住民の皆さんの安心・安全を守る拠点が完成したことを非常に嬉しく思います。

釜石警察署管内では大槌交番は平成27年度、唐丹駐在所は平成28年度の完成予定で進んでおり、鵜住居駐在所、吉里吉里駐在所についても復旧することとしておりますから、一日も早い完成・開所に向けてしっかりと取り組んでまいります。

平成25年度岩手県普通会計決算の概要

1 収支の状況



決算規模

歳入は1兆1,596億円と前年度比652億円の減、歳出は1兆571億円と前年度比547億円の減となり、歳入、歳出ともに減少しました。

この主な要因は、平成24年度に限り国から財源措置された基金造成事業費の減、国家公務員に準じた給与削減による人件費と交付税の減などによるものです。

一方、東日本大震災津波からの復旧・復興のための普通建設事業費と災害復旧事業費の合計額は、前年度比636億円の増となっています。

形式収支及び実質収支の状況

歳入歳出差引額(形式収支)は1,025億円となり、このうち翌年度へ繰り越す763億円を除いた実質収支は、262億円の黒字となりました。

この実質収支の黒字分262億円は平成26年度予算に繰り越され財源として使われますが、そのうち2分の1の131億円は法律に基づいて財政調整基金に積み立てられます。

歳入決算の概要

本県の歳入は、県税などの「自主財源」の割合が低く、国から交付される地方交付税や国庫支出金などの「依存財源」の割合が高いところですが、繰越金や諸収入が増加したことにより、自主財源の割合は上昇して48%となり、一方、国庫支出金や地方交付税が減少したことにより、依存財源の割合は減少して52%となりました。

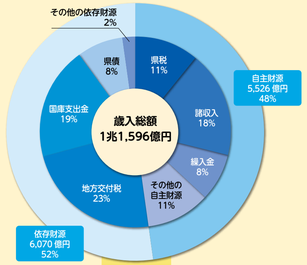
歳出決算の概要

制度的に支出が義務づけられている「義務的経費」は、過去に借り入れた地方債の償還である公債費が前年度比44億円の増となる一方、国家公務員に準じた職員給与の削減などにより人件費が前年度比74億円の減となり、全体では前年度比31億円の減となりました。

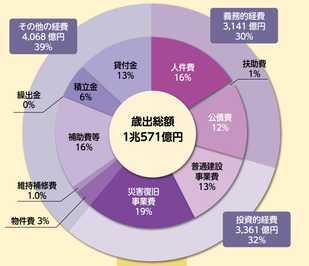
公共施設の建設や災害復旧など社会資本を整備する「投資的経費」は、普通建設事業費が災害公営住宅建設事業費の増などにより前年度比101億円の増、災害復旧事業費が災害廃棄物（がれき）緊急処理支援事業費の増などにより前年度比398億円の増となり、全体では前年度比499億円の増となりました。

その他の経費は、平成24年度に限り国から財源措置された基金造成事業費の減などにより積立金が前年度比583億円の減、補助費等が前年度比375億円の減となり、全体では前年度比1,015億円の減となりました。

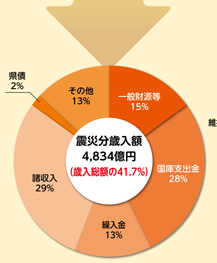
2 歳入決算の状況

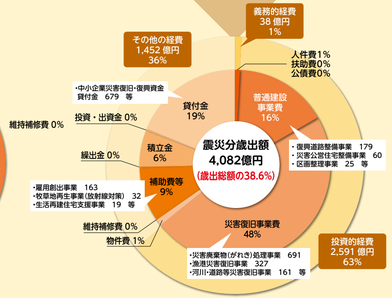


3 歳出決算の状況



うち震災復旧・復興事業分





平成25年度も、昨年同様、歳出のうち約4割が東日本大震災津波からの復旧・復興事業に使われています。

総務委員会の視察で大阪府・和歌山県へ

11月5日から7日までの3日間、県議会総務委員会の視察で大阪府・和歌山県を訪問し、大阪府では関西広域連合の取り組みについて、また和歌山県では水害対策の取り組み等について視察・調査を行いました。

現在、国において地方創生の取り組みが動き出したところであり、地方が如何に知恵を出して行けるかが大きなポイントになること、また、国・地方財政が厳しい局面を迎えている中で、如何にして無駄を省いていけるかがこれまで以上に求められていることから、都道府県の枠を超えた広域連合として全国初の取り組みを進めている関西広域連合を視察先として選定したところです。

関西広域連合は関西圏の自立・自主を実現するための具体的な手段として防災、観光・文化振興、産業振興、医療、環境保全・試験資格・免許、職員研修など国の出先機関から事務移譲を受けることを念頭に置きながら上記事務に取り組んでおり、その成果と課題等について意見交換をしたところです。

これから先、国と地方の在り方が大きく変化をしていくと思います。その変化を好機と捉え、岩手県として具体的にどのような取り組みを進めていくのか、さまざまな地方や地域の取り組みを積極的に学びながら、生かしていきたいと思います。

和歌山県では田辺市にて紀伊半島の大水害に係る防災対策等について視察・調査を行いました。

田辺市では平成23年の台風12号で3日間の雨量が2,000ミリを超える地域もあり、市内多くの地域で河川氾濫や土砂災害が発生、9名の方が犠牲となってしまった他、主要道路、農地、農産物に被害が発生し、電気、水道、電話などのインフラも寸断されるなど多くの被害を受けました。

そのような記録的な豪雨の中で、膨大な量の土砂を捕捉したえん堤の重要性や災害から得た教訓として地域の結束、情報伝達、集落間を結ぶ道路の在り方、市町村合併により迅速な対応ができたことに対する評価等など多くのことを学ばせていただきました。

地球を取り巻く環境の変化から、岩手県においても年々、局地的豪雨やそれに伴う甚大な被害が発生しており、被災地のまちづくりを進める上でも、豪雨対策を生かしたまちづくりが求められていると思います。

今後も多くの自治体の取り組みなども参考にしながら、県民の命を守る取り組みを推進していきたいと思います。

関西広域連合にて(大阪府)

水害現場の視察(和歌山県)

活動報告

平成26年9月4日
三陸縦貫道小船第2トンネル着工式(大槌町)

平成26年9月9日
大槌町小中一貫校安全祈願祭(大槌町)

平成26年9月11日
いわて国体冬季大会の準備状況を調査(岩手町)

平成26年9月24日
就任直後の竹下亘復興大臣と県内被災地を視察
(大槌町)

平成26年9月26日
自民党県連・県議会自民党会派として知事への要望
(盛岡市県庁)

平成26年10月30日
復興特別委員会にて汚染牧草の処理状況を視察
(金ケ崎町)

平成26年11月11日
水産物の資源管理に関する視察　(静岡県静岡市)

平成26年11月16日
小泉進次郎復興大臣政務官と釜石六次化研究会で開発中の「海まん」を試食　(釜石市)